

琵琶湖水系のイワナ

学芸員（水族生理学）

桑原雅之



琵琶湖水系に生息するイワナは、斑紋の様子から湖西側にニッコウイワナが、湖東側にヤマトイワナが分布するとされています。もしそれが本当ならば、同一水系に異なるタイプのイワナが生息することになり、それらはどこからやって来たのだろうかという疑問がわいてきます。そこで、2002年度からイワナの調査を始めました。

イワナは、渓流釣りの対象魚として人気があり、漁業権魚種にもなっていますから、まず放流が行われていない天然の個体群が残っている河川を探るところから始まります。最近、漁



写真：捕獲したイワナは麻酔をかけて写真撮影を行い、鱭の一部を採取した後、また元の川に戻します。

協による公的な放流のほか、個人的に放流する人もいて、天然の個体群を探すのはなかなか骨が折れます。2003年までの2年間で、10河川14個体群でサンプリングを行い、DNAによる分析を行いました。その結果、天然の個体群では変異が少なく、全く変異の認められないものもありました。逆に、養殖されたものや、放流の影響があると思われる個体群では、変異が比較的多いことがわかりました。どうも、琵琶湖水系に生息するイワナの天然個体群は、遺伝的な変異が少ないという特徴があるようです。イワナの分布状況を明らかにするためには、もう少し分析を進める必要がありますが、まだまだ天然イワナの棲む、素敵な環境が残されていることが、この調査を通してよくわかりました。



「子どもにも大人にも『近い川』が『ふるさと』の川になるで賞」を受賞。発表の瞬間、参加した親子の目から涙が溢れ、手を取り合って喜び姿が見られました。

今年7月、東京で開催された川の日ワークショップの「いい川づくり」の選考会で、伯母川博物館の「子どもにも大人にも『近い川』が『ふるさと』の川になるで賞」を受賞。発表の瞬間、参加した親子の目から涙が溢れ、手を取り合って喜び姿が見られました。

伯母川博物館は、川を調べる大人を巻き込み、地元公民館に「伯母川博物館」をつくり上げました。最大の成果は、多くの子どもたちにとっての伯母川は「生き物がいない川」「汚い川」入ってはい

きませんでした。博物館では、川という共通の話題を通して、地域の人々の世代を越えた交流が生まれました。活動当初、子どもたちは「博物館」という言葉の響きやその言葉から得るイメージにこだわり

館の取り組みは、全国の審査員から高い評価を受けました。昨年度、草津市立志津小学校、志津公民館、琵琶湖博物館の三者が連携し、地域に博物館をつくる事業を行いました。私は学校側の担当者として事業に関わりました。子どもたちは、川を調べ、大人を巻き込み、地元公民館に「伯母川博物館」をつくり上げました。

博物館では、川という共通の話題を通して、地域の人々の世代を越えた交流が生まれました。活動当初、子どもたちは「博物館」という言葉の響きやその言葉から得るイメージにこだわり

をもつて、「展示館、資料館」ではなくて「伯母川博物館」と名付けました。まさに「伯母川博物館」は、「博物館は人と人をつなぐ場」という博物館の理念と合致するものとなりました。今年、地域に伯母川博物館実行委員会を組織し、地域の手で博物館づくりに取り組んでいます。子どもと大人が協働し、「伯母川博物館」をつくり、ふるさとのよさを発見する。このような取り組みが継続していくことを願っています。

草津市立笠縫東小学校教諭・伯母川博物館実行委員 中村大輔

こんにちは！ 展示交流員です。



私たちは、琵琶湖博物館の案内だけでなく、展示を通してみなさんと交流し、みなさんに身近な自然や生活へ目を向けていただく『かけはし』となっています。どうぞお気軽にお声をかけてください。

琵琶湖博物館の中でも特に人気があるスポットの一つが水族展示にある「トンネル水槽」です。今回は、この「トンネル水槽」を使った交流の様子を、松岡展示交流員とダイバー役を務める丸尾水族飼育員に聞いてみましょう。



トンネル水槽

トンネル水槽ではどんな交流をしているのですか。

ここでは、水槽内のダイバーによる水中会話をおりまぜながら、魚の餌やりや楽しい水中実験をおこなっています。また、来館者の方々にも水槽の中にいるダイバーとの



水槽内のダイバー

会話を楽しんでもらっています。

水槽の内と外との会話はスムーズにいくのですか？

ダイバーとの会話は、水中にあるケーブルを通しておこなっています。時として、相手の話声が聞き取りにくいこともあります。『アイコンタクト』を使った連携プレイでクリアしています。

ダイバーとしての苦勞を聞かせてください。

ボンベや身体につけたおもりは見た目以上に重く重労働です。ウナギの餌やりではウナギがお昼寝から目を覚ましてくれなくて、冷や汗(?)をかくときもあります。

小さなお子さんの中には水中の私の姿を見て怖がって逃げってしまう方もおられますが、水槽の中を泳ぐたくさん「水族飼育員」の仕事を知ってもらえればと思ってがんばっています。



丸尾水族飼育員